

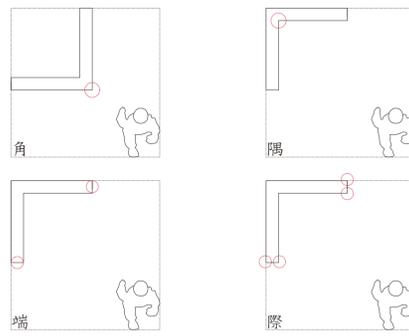
# ( 縁 ) 取る建築

- 視覚的奥行きが揺動する建築空間の構築 -



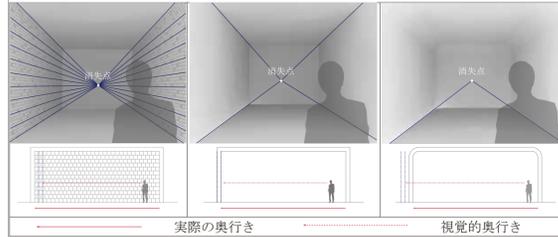
## 001. 縁(ふち)

領域の境目に生まれる縁(ふち)の存在に興味を持った。異なる領域を連関させる縁は、空間の奥行き認識と関連深いと考えられ、それらの関係性に着目する。



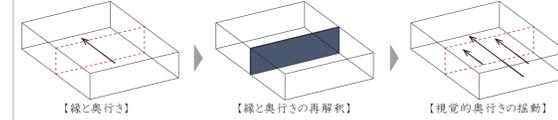
## 002. 縁を構成する要素の定義

縁とは物の端の部分、または物の周辺に幅を持った部分のことを指す。本研究では前者の物体の輪郭線となる部分を建築空間における縁とし、それを構成する要素として以上の4つとして捉えていく。



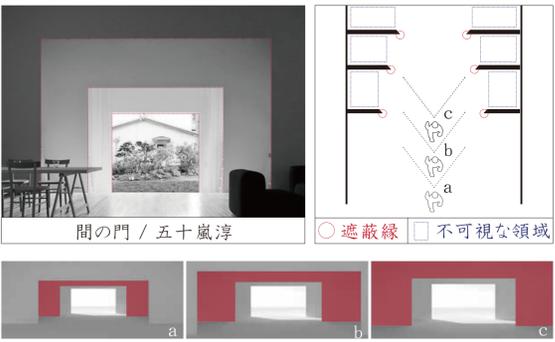
## 003. 物理的奥行きと視覚的奥行き

奥行きには実際の物理的奥行きと、の認識による視覚的奥行きがある。建築空間の輪郭線が弱まると共に消失点を認識する補助も弱くなるため、物理的奥行きと視覚的奥行きの間が歪み、実際の距離以上の空間の広がりを感じると考えられる。



## 004. 目的

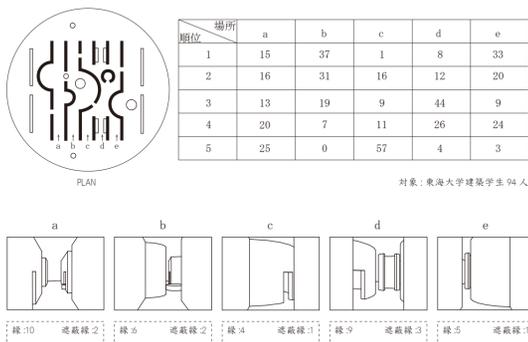
奥行きには実際の物理的奥行きと、の認識による視覚的奥行きがある。建築空間の輪郭線が弱まると共に消失点を認識する補助も弱くなるため、物理的奥行きと視覚的奥行きの間が歪み、実際の距離以上の空間の広がりを感じると考えられる。



○ 遮蔽線 □ 不可視領域

## 005. 遮蔽線と不可視領域

遮蔽線と呼ばれる視野を限定する遮蔽面に生まれる縁は、不可視領域を生み出す。不可視領域への意識が高まることで、見えない先を想起させ視覚的奥行きが広がると考えられる。また、移動と共に不可視領域が可視化されることで空間移動を誘導する要因となると考えられる。



## 006. Sculpture Pavilion の分析

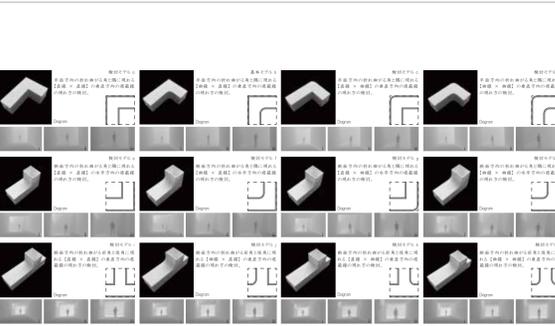
ファン・アイクのパヴィリオンを縁の観点から着目し、5つのレイヤー空間を入り口から見たアイレベルのシーンを作成し、意識調査を行った。結果、視野の限定による抜け、遮蔽線による不可視領域、曲線による先の空間の想像によって奥行き認識が強くなることが明らかになった。

## 「内と外の間 / 家具と部屋の間」 五十嵐淳

	フレーミング	反復	曲線	対比
対象部分				
手法	開口を絞る	縁の量を増やす	角・隅を湾曲させる	異なる輪郭線(縁)の前後の対比配置
効果	視線効果により、視線の注意が同形の輪郭線が前後に反復することで、視覚的奥行きは物理的奥行きと一致しやすくなる。	隅がない空間は空間のヒエラルキーがなくなるため奥行きを生み出した空間は複数の消失点を持つ。奥行き認識が敏感になる。	隅がない空間は空間のヒエラルキーがなくなるため奥行きを生み出した空間は複数の消失点を持つ。奥行き認識が敏感になる。	異なる輪郭線(縁)の対比で構成された空間は複数の消失点を持つ。奥行き認識が敏感になる。

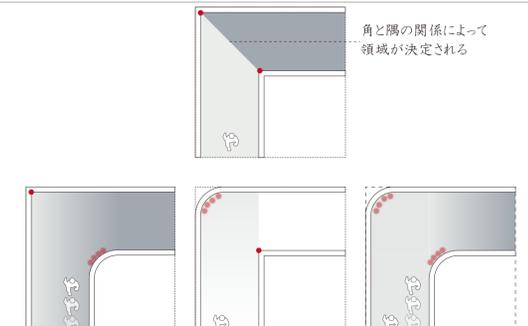
## 007. 「内と外の間 / 家具と部屋の間」の分析

五十嵐淳のパヴィリオンは窓を拡張させたことで、独特な奥行きを持っている。この作品を縁の観点から読み解くことで、視覚的奥行きの広がりのきっかけとなる縁の操作を4つ抽出することができる。



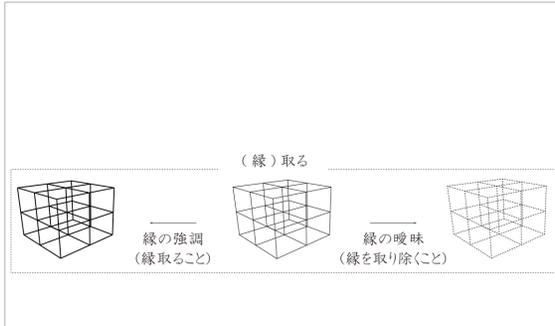
## 010. “角”と“隅”に現れる遮蔽線の検討モデル

“角”と“隅”を対象部分として、曲線と直線の対比による遮蔽線の現れ方を12個の検討モデルを作成し、分析を行った。



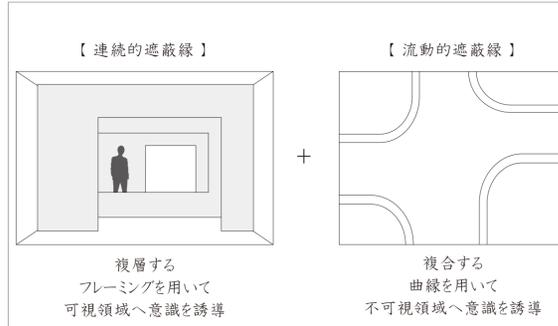
## 011. 角と隅の組み合わせ

曲線の角は移動と共に絶えず流動的に遮蔽線が現れ、隅の曲線は直線と比較すると輪郭がまよけて見える。これらは、定点と移動の点から視覚的奥行きを揺動するのに効果的だと考えられる。



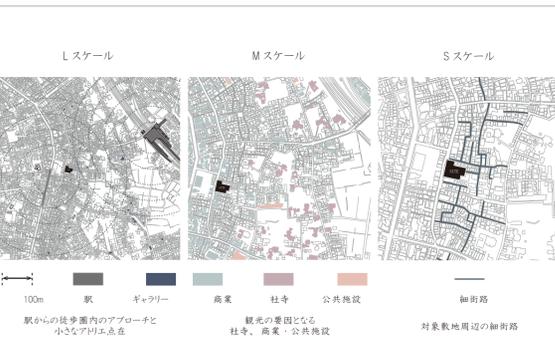
## 012. ( 縁 ) 取る

縁の強調と曖昧の両操作を用いることで可視・不可視領域への意識を誘導することで視覚的奥行きを揺動させる手法を【(縁)取る】と定義する。



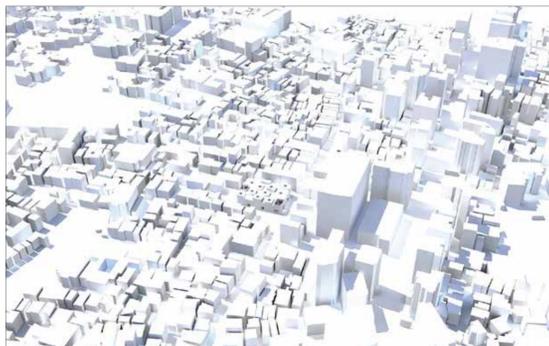
## 013. 連続的遮蔽線と流動的遮蔽線

奥行きには実際の物理的奥行きと認識による視覚的奥行きがある。建築空間の輪郭線が弱まると共に消失点を認識する補助も弱くなるため、物理的奥行きと視覚的奥行きの間が歪み、実際の距離以上の空間の広がりを感じると考えられる。



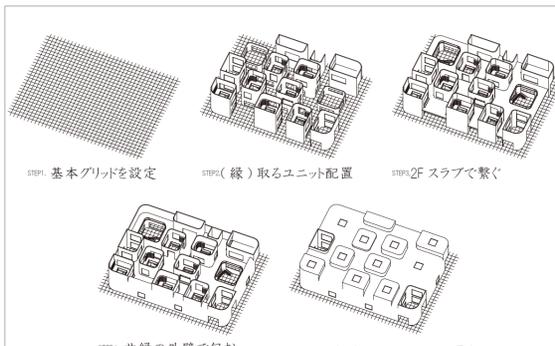
## 015. 対象敷地: 台東区谷中

日暮里駅と千駄木駅の間に位置する台東区谷中は、小さなギャラリーが点在する創作活動が根付いた街である。不可視領域を持つ細街路で構成された谷中3丁目には、本設計手法に通じている敷地がある。路地空間を持つスケール感を(縁)取る建築に取り込む。



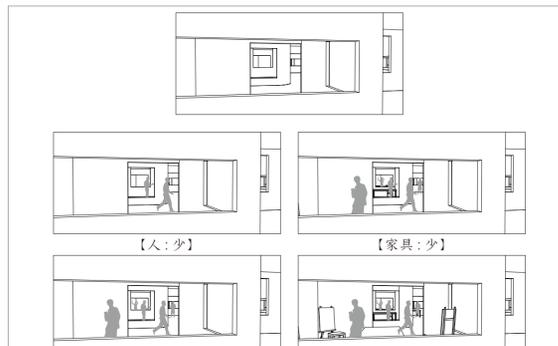
## 017. プログラム: 滞在機能付きシェアスタジオ

古くから残る低層の木造住宅や、社寺を目的とした観光により、かつて住宅街であった谷中は観光化され、街に混雑を生んでいる。そこで、その緩急を促す滞在機能を備えたシェアスタジオを提案する。



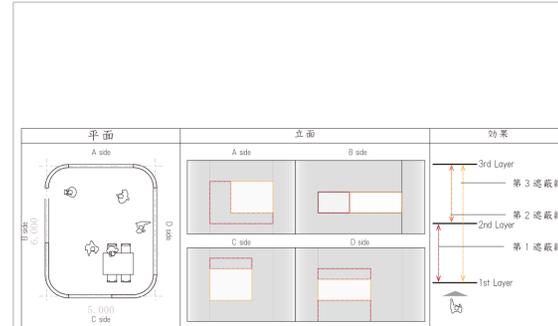
## 018. 構成プロセス

構成プロセスとして、基準グリッドを設定し、それからズラしながら(縁)取るユニットを配置する。その間を2Fスラブで繋ぎ、曲線の外壁で囲み、曲・直線の屋根スラブで覆う。



## 019. 行為の断片を重ね合わせる遮蔽線

ユニットの開口のずれにより多様な遮蔽線が現れ、固有空間と共有空間を持つ建築空間が構築される。フレーミングに人や家具が入り込むことによって基準面が遮蔽され、多様な視覚的奥行きが生まれる。



## 014. ( 縁 ) 取るユニット

曲線の隅で囲まれた単位空間を基本ユニットに、四方の開口の大きさと位置をズラすことで3種の遮蔽線を生み出し、視覚的奥行きが揺動する建築空間を構築する。



## 020. ( 縁 ) 取る建築

遮蔽線を手がかりに(縁)取ることで可視・不可視領域への意識を誘導させ、視覚的奥行きの揺動を生みだせる本設計手法は、固有空間の行為の断片を重ね合わせ、相互に緩衝し合う建築空間が構築される。



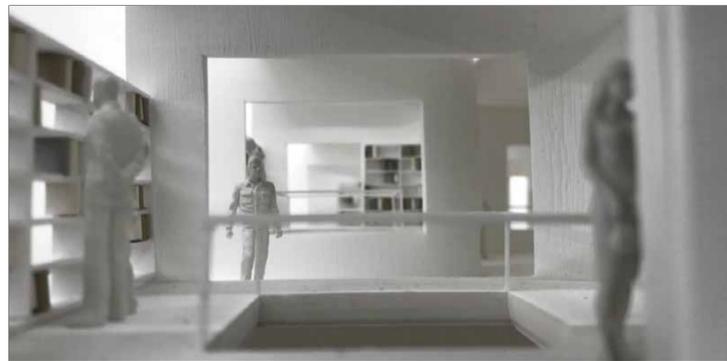
021. メインエントランスからの連続遮蔽線



022. アトリエの斜め方向の連続遮蔽線】



023. アトリエの連続遮蔽線



024. 図書スペースの連続遮蔽線



025.1F 共有空間の流動的遮蔽線



026.2F 共有空間の流動的遮蔽線



027. 地域ラボは周辺居住者と来訪者が交わり、街の拠点となる場所となる



028. カフェからの一番奥まで視線が絞られながら抜ける



029. カフェと地域ラボのユニット壁は1Fまでとなり、開放的な上下を繋ぐ機能を果たす



030.1Fと2Fの気配が吹き抜けの遮蔽線で共有される



031.1F 共有空間・アトリエ・図書スペースによる立体的な遮蔽線



032. アトリエ・共有空間・アトリエによる平面的な遮蔽線



033. レベル差が領域を生み出す図書スペース



034. 図書空間には下層のアトリエと関連する図書が配架される



035. アトリエの振る舞いが滲み出す



036. アトリエでつくられたものが展示される展示スペース



037. アトリエで制作されたものが販売される



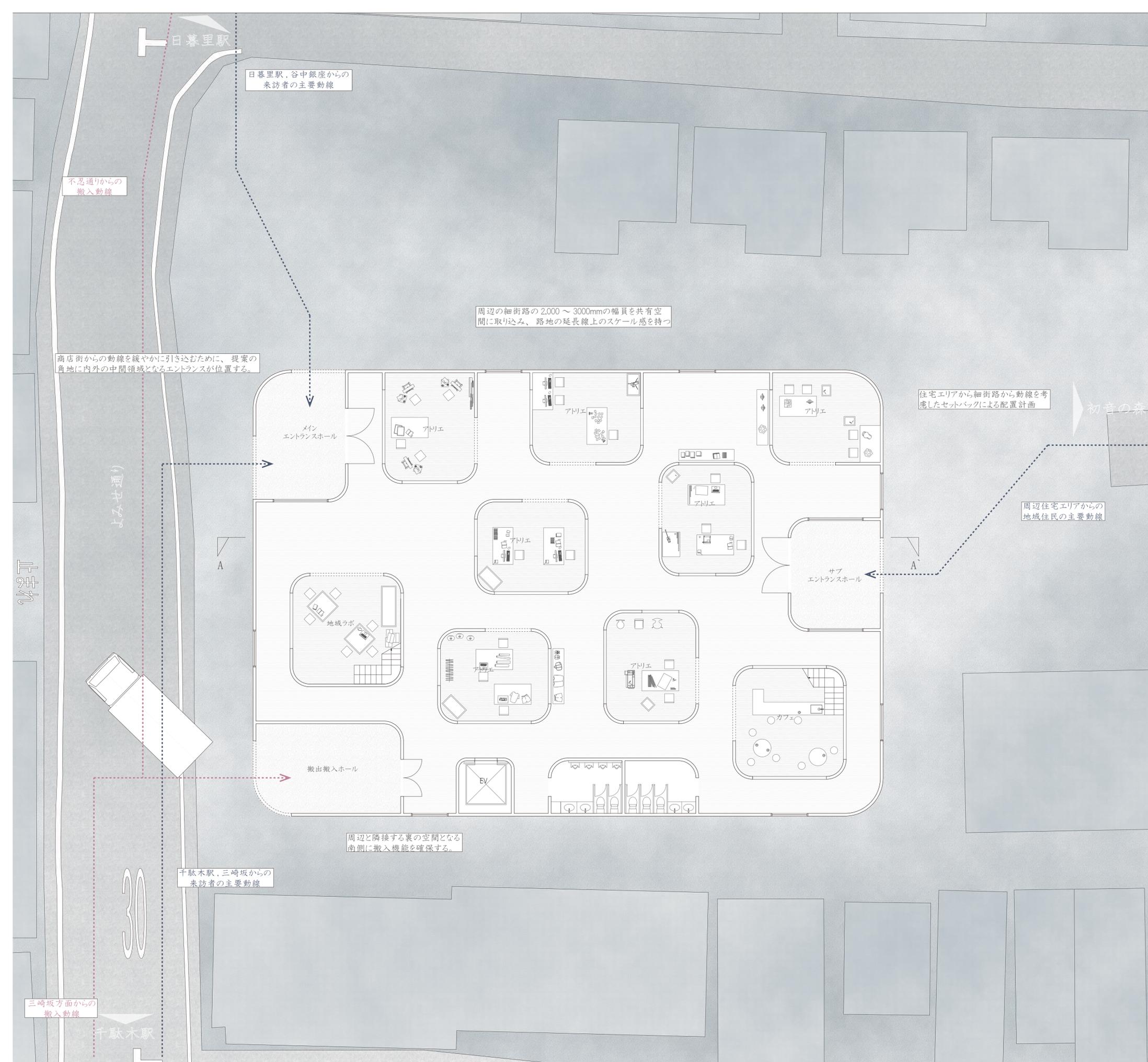
038. 天井採光により2fから1fまで照らす



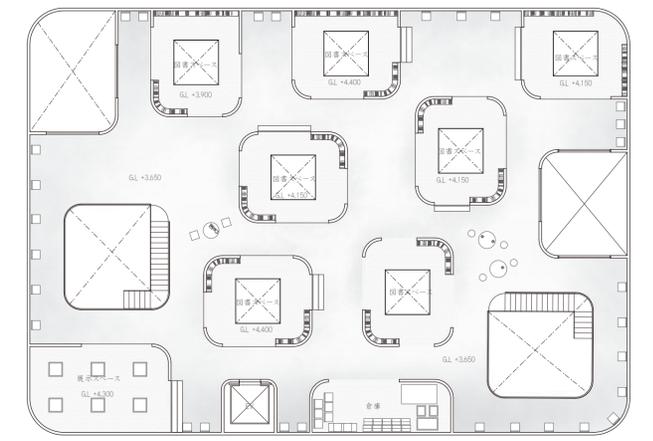
039. 共有空間の窓際に滞留域が生まれる



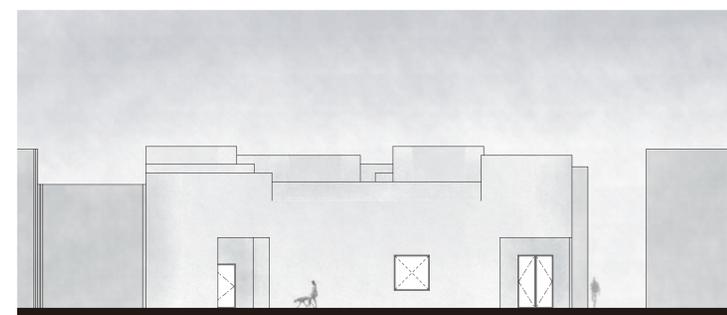
040. 移動に伴い多様な連続遮蔽線と流動的遮蔽線が発生する



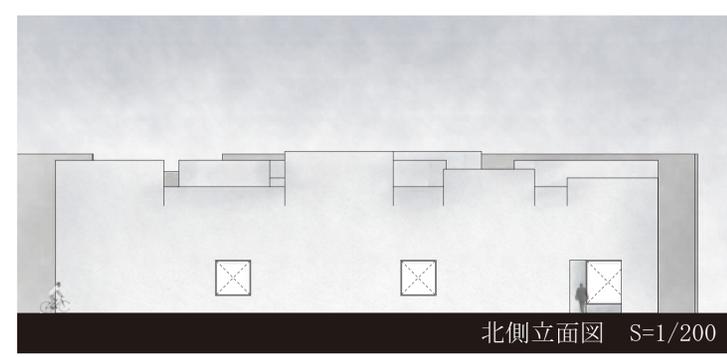
1F 平面図 S=1/100



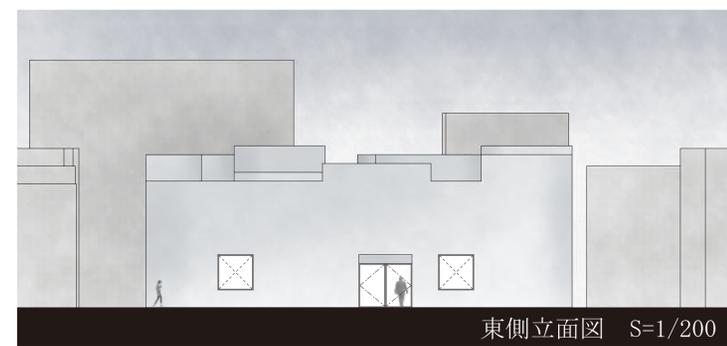
2F 平面図 S=1/200



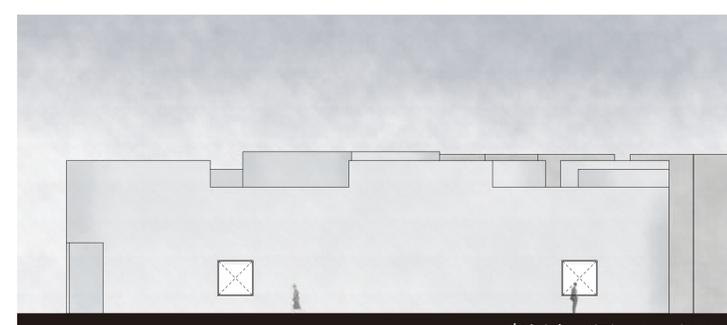
西側立面図 S=1/200



北側立面図 S=1/200



東側立面図 S=1/200



南側立面図 S=1/200

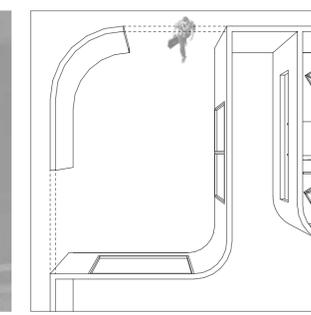
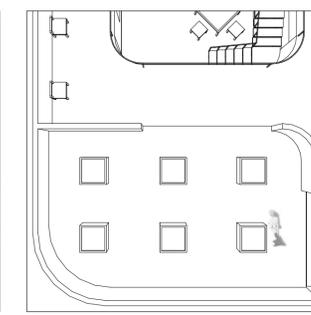
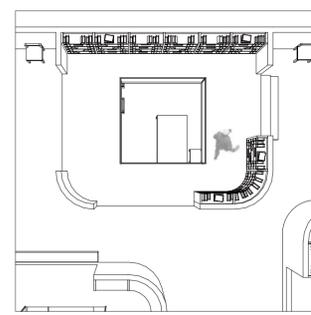
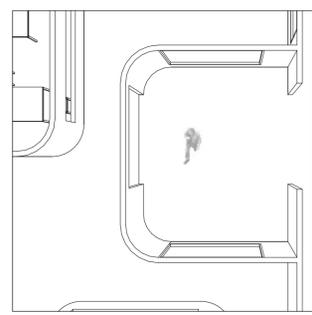


屋根のないサブエントランスは曲線で囲われ、内外の中間領域となる。

トップライトからの採光による光が2Fスラブの吹き抜けを1階のアトリエまで降り注ぐ。

断面方向に現れる曲線は屋根と壁に生まれる線を曖昧にし、視覚的奥行きに広がりをもたらす。

A-A' 断面図 S=1/50

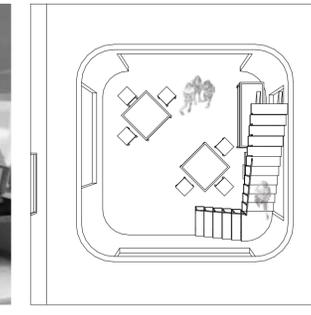
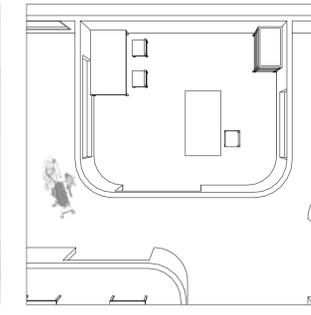
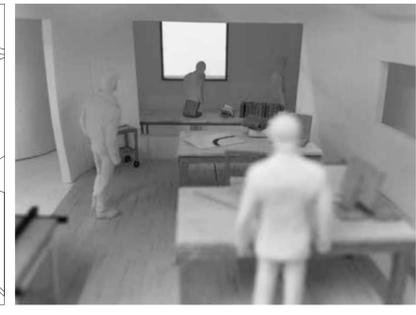
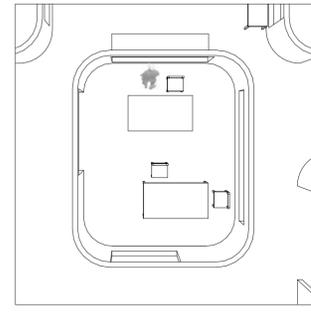
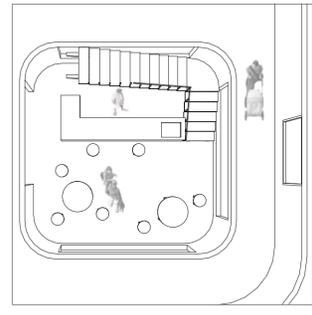


【サブエントランス】住宅エリアからの動線上に位置し、三方に上下2つの開口があり、外と内の中間領域となる居場所となる。

【図書スペース】アトリエの上層に位置する図書スペースは、吹き抜けと天井窓が設けられており下層と外の気配を感じられる。

【展示スペース】2F地域ラボ周辺に近接する曲線で囲まれた輪郭がぼやけた展示スペース。展示品が楽しめる。

【メインエントランス】メインエントランスから奥のアトリエまで、可視領域が絞られながら抜けており、複層する遮蔽線による奥行きを持つ。



【カフェ】サブエントランスと近接する角地に位置するカフェ。近隣住民の憩いの場所として機能する。

【アトリエⅠ】四方に開口を持つアトリエ。アーティストによる創作物等が共有空間に展示・販売が行われる。

【アトリエⅡ】三方に開口を持つアトリエ。斜め方向に連続するアトリエの振る舞いが見え隠れしながら奥まで視線が抜ける。

【地域ラボ】前面の商店街の人やアトリエ利用者、訪問者とのコミュニティを生み、地域の核となる居場所となる。